

第333回NRIメディアフォーラム

「スポーツ環境」に関する都市ランキング ～スポーツを活用したまちづくりの効果と"スポーツ都市"の考察～

株式会社野村総合研究所

コンサルティング事業本部

社会システムコンサルティング部

谷本敬一郎、西崎遼、原田遼

経営DXコンサルティング部

原口瞳

2022年4月28日

NRI

Share the Next Values!



本日お伝えしたいこと

💡 スポーツ環境が充実している都市のランキングを作成

💡 特に良い効果をもたらすスポーツ環境を解明

💡 効果的なまちづくりを実現している“スポーツ都市”の存在を確認

01 スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

02 調査方法

03 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

04 “スポーツ都市”に関する考察

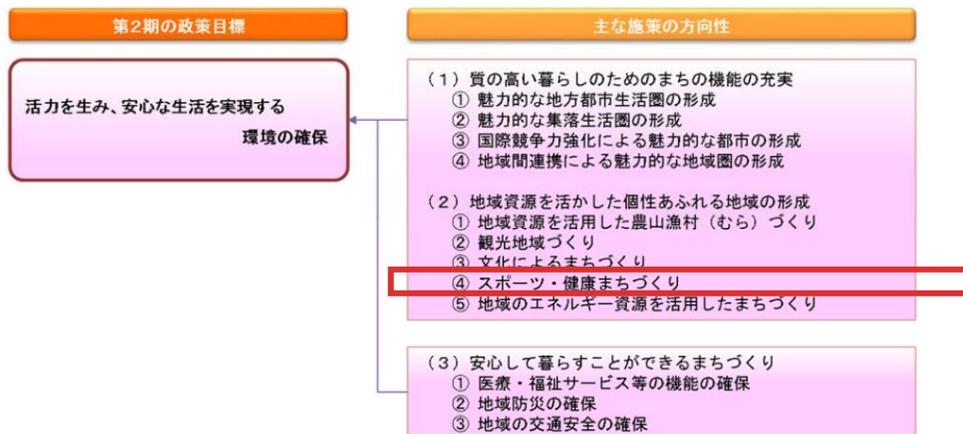
05 まとめ

1. スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

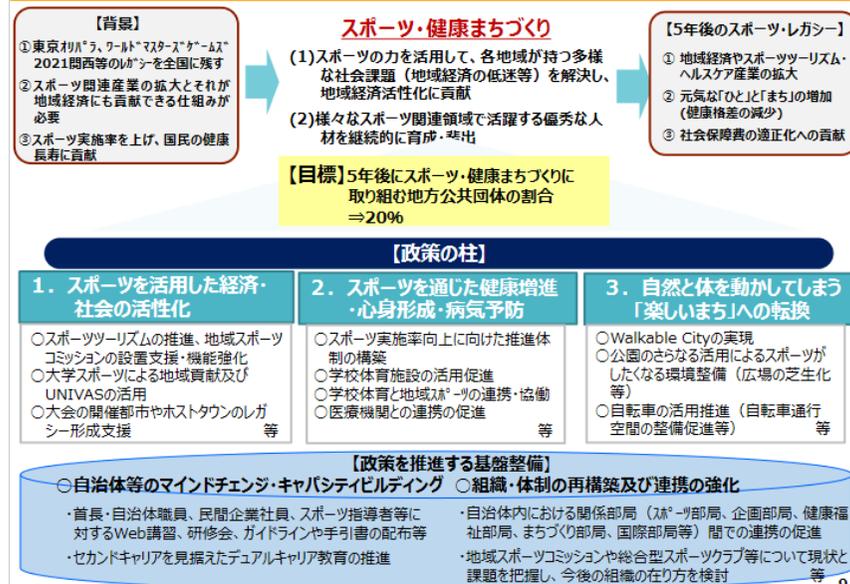
近年、スポーツを活用した健康まちづくりを推進する都市は、増加傾向にある。一方で、その効果や必要なスポーツ環境は、十分に検証されてこなかった。

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和元年12月20日閣議決定）

スポーツ庁による「スポーツ・健康まちづくり」の推進



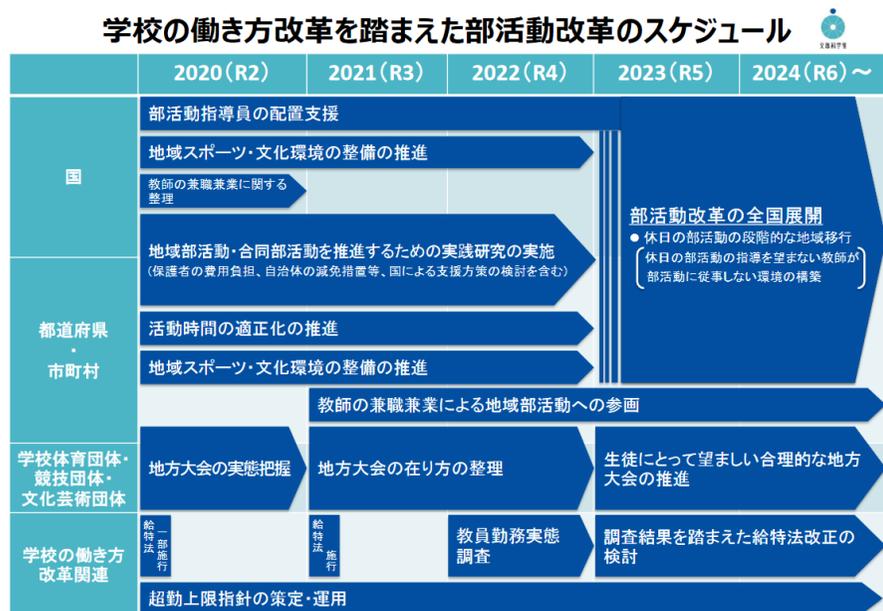
第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略における「スポーツ・健康まちづくり」（概要）



1. スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

文科省の政策方針にもある通り、学生のスポーツ活動の場は、学校から地域へ。今後、都市でスポーツ環境を構築することの重要性は、更に高まることが想定される。

文科省による部活動の地域移行のスケジュール



スポーツ庁による部活動の地域移行に関する方策

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要

部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた**人間形成の機会**や、**多様な生徒が活躍**できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は**教師による献身的な勤務**の下で成り立ってきたが、**休日を含め、長時間勤務の要因**であることや、**指導経験のない教師にとって多大な負担**であるとともに、**生徒にとっては望ましい指導を受けられない**場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給特法の国会審議において「**部活動を学校単位から地域単位の取組とする**」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- ◆ **部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務**であることを踏まえ、**部活動改革の第一歩**として、休日に教科指導を行わないことと同様に、**休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境**を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き**休日に指導を行うことができる仕組み**を構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、**休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境**を整備

具体的な方策

I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- **休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保**
（育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の仕組みの活用）
- **保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援**
- **拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開**

II. 合理的で効率的な部活動の推進

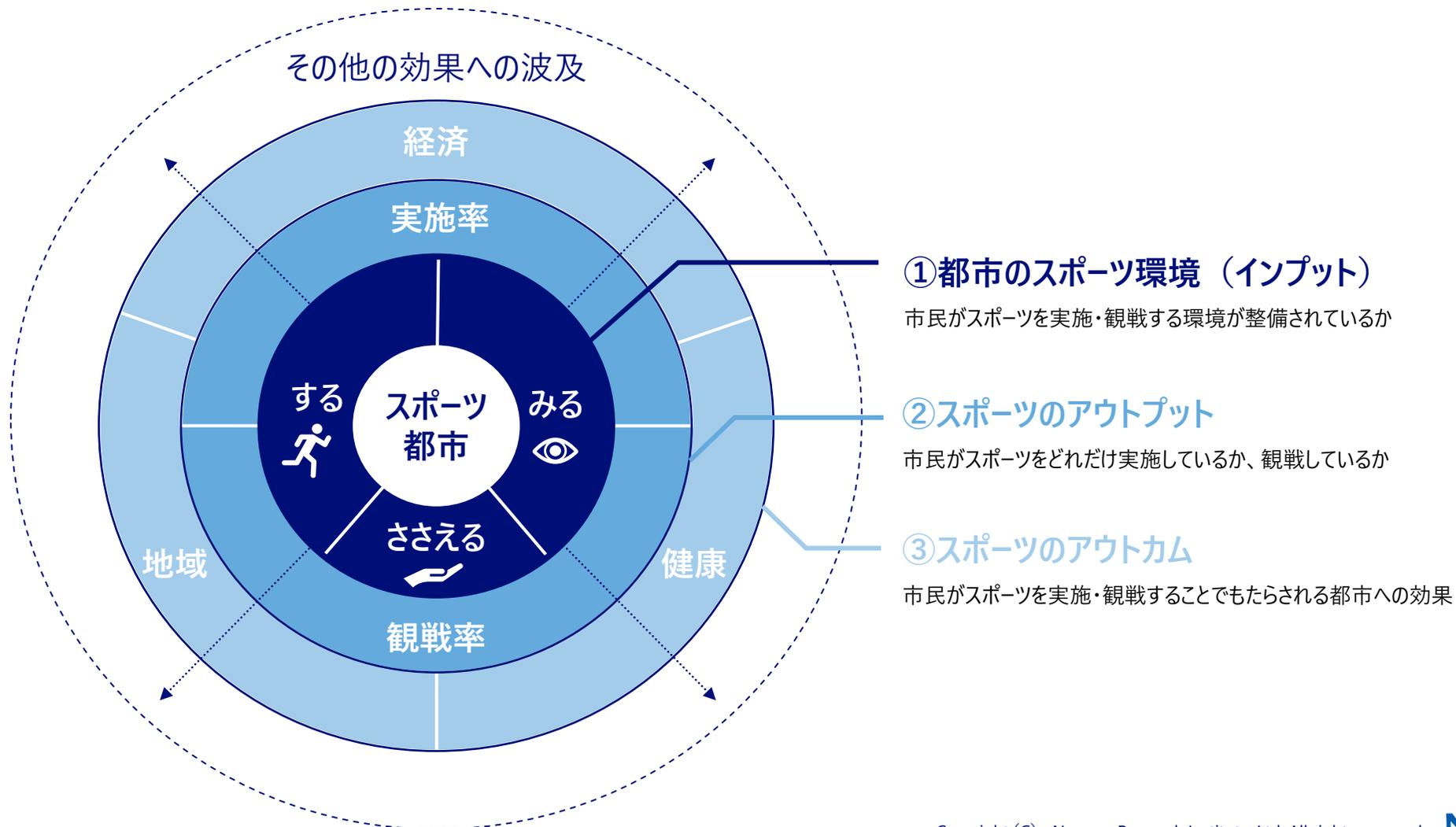
- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との**合同部活動の推進**
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となる **ICT活用の推進**
- 主に**地方大会の在り方の整理**（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においても同様の考え方を基に取組を実施。
 ※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

1. スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

本調査では、都市のスポーツ環境が市民のスポーツ実施率・観戦率を高め、さらに、それがまちづくりの効果として表れている“スポーツ都市”を探索した

“スポーツ都市”のイメージ



01 スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

02 調査方法

03 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

04 “スポーツ都市”に関する考察

05 まとめ

2. 調査方法

①都市のスポーツ環境、②スポーツのアウトプット、③アウトカムの3つの観点で評価した

評価の視点		評価指標設定のポイント	主な評価指標
1 都市の スポーツ環境 (インプット)	する	<ul style="list-style-type: none"> 全ての住民がスポーツを“する”施設“及び”都市環境”の充実度に関して評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 公共/民間スポーツ施設数 住民参加型スポーツイベント開催数 建造・自然環境の満足度 等
	みる	<ul style="list-style-type: none"> 観戦料を払って、直接“みる”機会の提供に関して評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 国際競技大会予定/開催数 主要国内競技大会開催数 国内トップリーグの有無、試合数 等
	ささえる	<ul style="list-style-type: none"> 住民、地元企業、自治体の3者のスポーツのささえている度合（スポーツ関連の取組の積極性）について評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 住民のスポーツボランティア参加率 企業のスポーツ支援への積極性 自治体によるスポーツ施策の積極性 等
2 スポーツの アウトプット	実施率	<ul style="list-style-type: none"> 住民がスポーツを“する”頻度について、有償/無償・個人/団体の観点で評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 個人スポーツの実施率 所属スポーツ団体への参加頻度 等
	観戦率	<ul style="list-style-type: none"> 住民のスポーツを“みる”頻度を、観戦方法別（直接・間接）に評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> サポートチームの有無 観戦方法（直接・間接）別の観戦頻度 等
3 スポーツの アウトカム	経済	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの実施や観戦に基づく支出に関して、評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツサービスへの支出 スポーツ用品への支出 等
	健康	<ul style="list-style-type: none"> 住民の健康状態に関して、医療費・健康への意識・健康状態の3つの観点で評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 医療費 自身の健康への意識の強さ 自身の精神面・身体面における健康状態 等
	地域	<ul style="list-style-type: none"> 住民が自身の住む都市に持つイメージやコミュニティ形成について、評価指標を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 都市のイメージ スポーツを通じた交流人口 移住におけるスポーツ要因の強さ 等

2. 調査方法

3つの観点は、下記36項目で構成されている

		大項目	中項目	小項目
インプット	する	スポーツ施設の充実度	スポーツ施設	公共スポーツ施設 民間スポーツ施設
		スポーツ意欲を高める環境	社会・文化環境 建造・自然環境	イベント参加環境 ウォークブル・ランニング環境 緑豊かな（アウトドア）環境 インクルーシブ環境
		直接観戦の機会提供	国際競技大会をみる機会の充実度 国内競技大会をみる機会の充実度 国内トップリーグをみる機会の充実度	
	みる	ステークホルダーの積極性	住民の積極性	スポーツボランティア 公認スポーツ指導者
		ささえる	企業の積極性	企業によるスポーツへの支援
			自治体の積極性	スポーツに関する計画 スポーツ専門の部局 スポーツコミッション オリパラ誘致
	アウトプット	スポーツの実施率	個人でのスポーツ実施率	無料 有料
			団体でのスポーツ実施率	所属 頻度
		スポーツの観戦率	サポーター活動への積極性	
直接観戦の頻度 間接観戦の頻度			有料観戦 地上波TV 有線TV インターネット	
アウトカム	経済	スポーツ関連支出	スポーツサービス消費額 スポーツ用品消費額 サポーター活動消費額	
	健康	医療費		
		健康への意識 自覚的健康状態	健康への意識の高さ 精神面 身体面	
	地域	居住都市に対するブランドイメージ	ブランドイメージ	
		地域コミュニティ	居住都市のインクルーシブ性 スポーツを通じた地域交流 移住決定理由におけるスポーツの大きさ	

2. 調査方法

国内106都市を対象に「居住都市のスポーツ環境調査」を実施し、計72の指標を収集。全指標をZスコア化した上で小項目ごとに合計し、項目ごとのランキングを算出した。

- 調査タイトル : 居住都市のスポーツ環境調査
- 調査対象都市 : 106都市（政令指定都市、中核市、県庁所在市、施行時特例市）
- 調査時期 : 2021年9月

- 調査手法
 - デスクトップ調査 : 公開されている統計情報の収集
 - アンケート調査 : 回答者 : 2018年以前から対象都市に住む20～59歳の男女
割付条件 : 男女×20-30代、男女×40-50代の4象限で各25%
回答者数 : 大都市（横浜市、名古屋市、大阪市）で200名、その他の都市で100名

- 分析手法 :
 - 統計情報ならびにアンケート調査によって取得した全72の指標をZスコア化
 - 小項目ごとにZスコアを合計し、指標数で割った「小項目スコア」を算出
 - ・ 大項目・中項目のスコアも同様に算出
 - ランキングは、大項目スコア（または大項目の合計スコア）にて決定

$$Z_{\text{スコア}} = \frac{\text{各都市の値} - \text{平均値}}{\text{標準偏差}}$$

※平均値と等しい場合は0になり、
平均値より高い場合はプラス、低い場合はマイナスになる

01 スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

02 調査方法

03 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

04 “スポーツ都市”に関する考察

05 まとめ

3. 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

ランキング結果のまとめ

※括弧内はスコア

項目		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
都市のスポーツ環境	総合	横浜市 (4.47)	札幌市 (3.75)	長野市 (3.45)	広島市 (3.23)	千葉市 (3.17)
	する	鳥取市 (1.29)	長岡市 (1.09)	松本市 (1.04)	宮崎市 (1.02)	つくば市 (1.00)
	みる	横浜市 (4.15)	札幌市 (3.44)	大阪市 (3.11)	広島市 (2.55)	千葉市 (2.17)
	ささえる	福井市 (1.21)	山形市 (1.08)	前橋市 (1.08)	金沢市 (1.02)	宮崎市 (1.00)
スポーツのアウトプット	実施率	名古屋市 (2.13)	北九州市 (1.36)	大阪市 (1.24)	神戸市 (1.15)	八尾市 (1.10)
	観戦率	広島市 (3.35)	さいたま市 (2.43)	北九州市 (2.02)	名古屋市 (1.93)	呉市 (1.91)
スポーツのアウトカム	経済	高松市 (0.84)	金沢市 (0.83)	さいたま市 (0.82)	札幌市 (0.58)	新潟市 (0.43)
	健康	千葉市 (1.38)	つくば市 (1.35)	川口市 (1.14)	所沢市 (1.05)	豊中市 (0.96)
	地域	西宮市 (2.37)	つくば市 (1.58)	豊中市 (1.53)	横浜市 (1.33)	名古屋市 (1.08)

3. 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

項目別ランキング：都市のスポーツ環境（総合）

順位	都市名
1	神奈川県横浜市
2	北海道札幌市
3	長野県長野市
4	広島県広島市
5	千葉県千葉市
6	大阪府大阪市
7	大分県大分市
8	愛知県名古屋市
9	宮崎県宮崎市
10	兵庫県神戸市

第1位 神奈川県横浜市

- Jリーグ（横浜F・マリノス、横浜FC等）、プロ野球（横浜DeNAベイスターズ）のチームの本拠地となっており、ホームスタジアムが立地しているため、トップリーグ試合の観戦機会が充実しており、「みる」環境のスコアが突出して高いことが総合1位の要因。
- 「ささえる」環境では、自治体の積極性で高いスコアが出ている。スポーツ基本計画が存在し、オリパラ誘致を積極的に行っていたことが要因となった。
- 一方、「する」環境は平均よりも小さいスコアとなっている。



3. 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

項目別ランキング：都市のスポーツ環境（する）

順位	都市名
1	鳥取県鳥取市
2	新潟県長岡市
3	長野県松本市
4	宮崎県宮崎市
5	茨城県つくば市
6	長野県長野市
7	新潟県上越市
8	茨城県水戸市
9	群馬県前橋市
10	愛知県名古屋市

第1位 鳥取県鳥取市

- 市が保有する体育館、陸上競技場、野球場、プール施設などの公共スポーツ施設が充実（一人当たり施設数）。
- 加えて、都市内のウォーカブル・ランニング環境、緑豊かな環境、バリアフリー等のインクルーシブ環境等が充実しており、市民がスポーツを“する”環境が整備されているといえる。



3. 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

項目別ランキング：都市のスポーツ環境（みる）

順位	都市名
1	神奈川県横浜市
2	北海道札幌市
3	大阪府大阪市
4	広島県広島市
5	千葉県千葉市
6	兵庫県神戸市
7	長野県長野市
8	大分県大分市
9	福岡県福岡市
10	愛知県名古屋市

第1位 神奈川県横浜市

- Jリーグ（横浜F・マリノス、横浜FC等）、プロ野球（横浜DeNAベイスターズ）のチームの本拠地となっており、ホームスタジアムが立地しているため、トップリーグ試合の観戦機会が充実。
- また、市として積極的に国際競技大会（2021ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会等）、国内競技大会を招致しており、様々な競技の試合を観戦する環境が整備されている。



3. 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

項目別ランキング：都市のスポーツ環境（ささえる）

順位	都市名
1	福井県福井市
2	山形県山形市
3	群馬県前橋市
4	石川県金沢市
5	宮崎県宮崎市
6	山梨県甲府市
7	埼玉県さいたま市
8	愛知県豊田市
9	岐阜県岐阜市
10	長野県長野市

第1位 福井県福井市

- 様々なスポーツ大会の運営を支えるスポーツボランティアの参加割合の高さ、スポーツ指導者数の多さ等市民のスポーツに対する積極性が高い。
- 市としてもスポーツ基本計画を策定している他、スポーツを通じて地域活性化を図るスポーツコミッション「福井県スポーツまちづくり推進機構」も設置。



3. 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

項目別ランキング：スポーツのアウトプット（実施率）

順位	都市名
1	愛知県名古屋市
2	福岡県北九州市
3	大阪府大阪市
4	兵庫県神戸市
5	大阪府八尾市
6	大阪府寝屋川市
7	高知県高知市
8	新潟県長岡市
9	長崎県佐世保市
10	徳島県徳島市

第1位 愛知県名古屋市

- 住民のスポーツ施設（ジム、プール、ヨガ、ゴルフ等）の利用頻度が高い。また、スポーツ団体への所属割合や試合・イベントへの参加頻度も高く、住民が積極的にスポーツを実施しているまちといえる。



3. 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

項目別ランキング：スポーツのアウトプット（観戦率）

順位	都市名
1	広島県広島市
2	埼玉県さいたま市
3	福岡県北九州市
4	愛知県名古屋市
5	広島県呉市
6	大阪府八尾市
7	宮城県仙台市
8	千葉県千葉市
9	大分県大分市
10	北海道札幌市

第1位 広島県広島市

- 地元プロのスポーツチームのサポーターとなっている住民割合が高く、スタジアム等での直接観戦、テレビ・インターネットを通じた間接観戦割合が高く、多くの住民がスポーツを“観戦”するまちといえる。



01 スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

02 調査方法

03 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

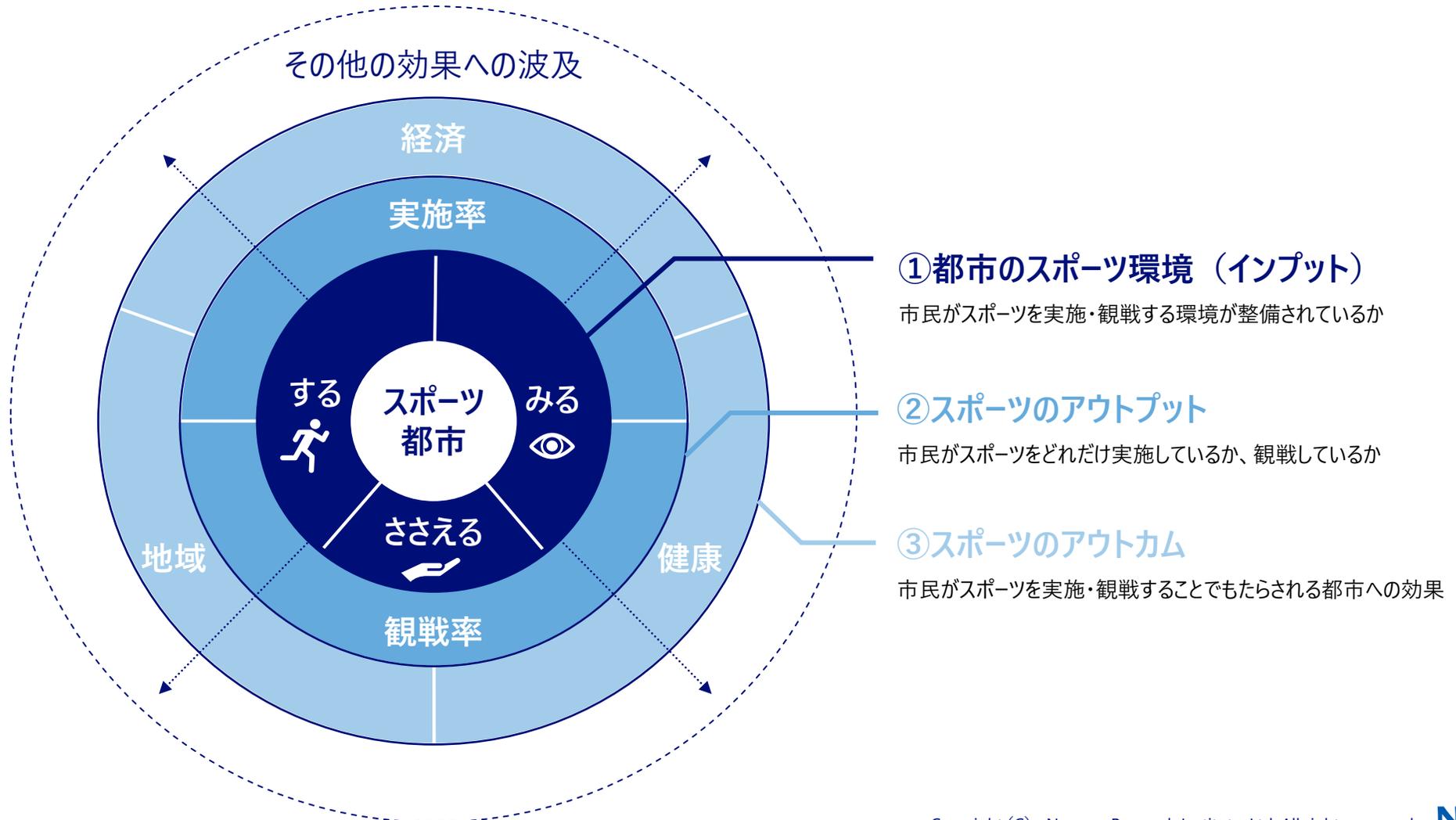
04 “スポーツ都市”に関する考察

05 まとめ

4. “スポーツ都市”に関する考察

本調査では、都市のスポーツ環境が市民のスポーツ実施率・観戦率を高め、さらに、それがまちづくりの効果として表れている“スポーツ都市”を探索した

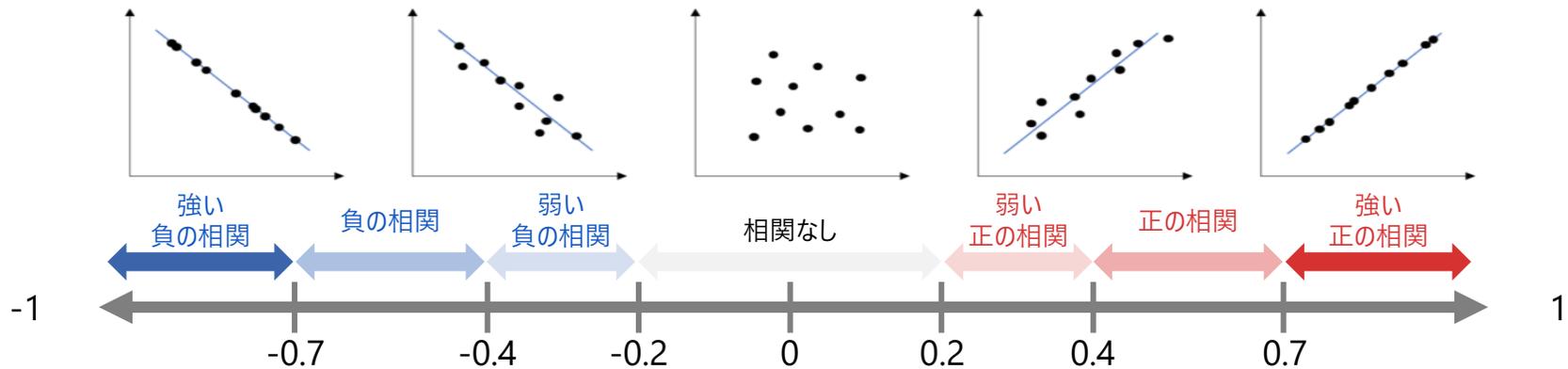
“スポーツ都市”のイメージ



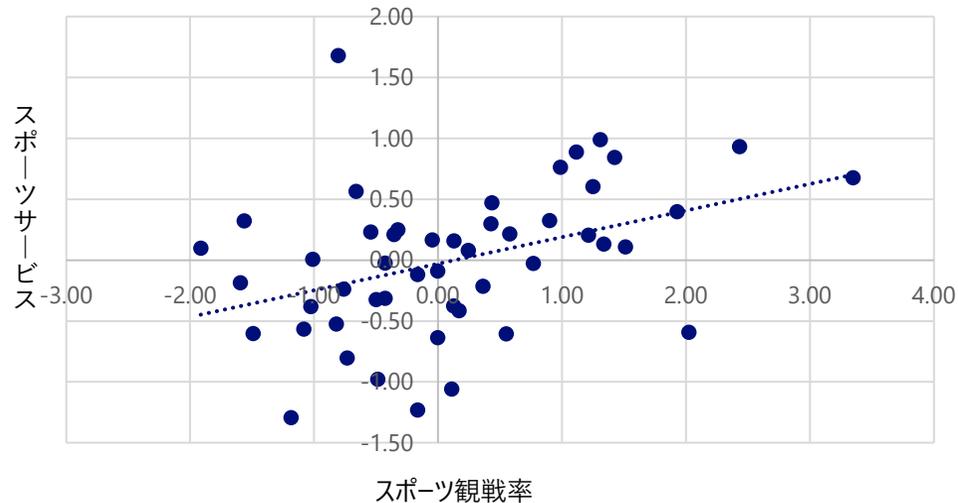
4. “スポーツ都市”に関する考察

都市におけるスポーツ環境（インプット）・アウトプット・アウトカム間の関係を検証するため、Zスコアを活用して相関分析を行った

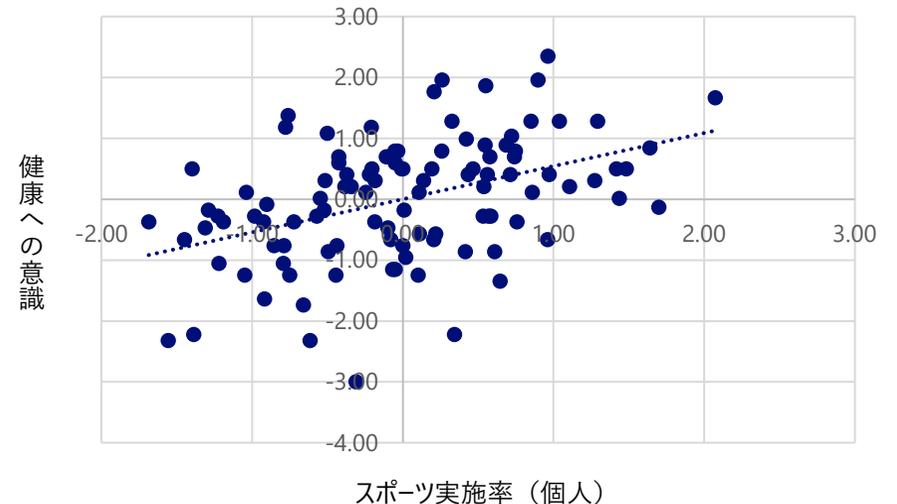
本調査にて採用した相関係数の基準



例：スポーツサービス×スポーツ観戦率（相関係数：0.45）



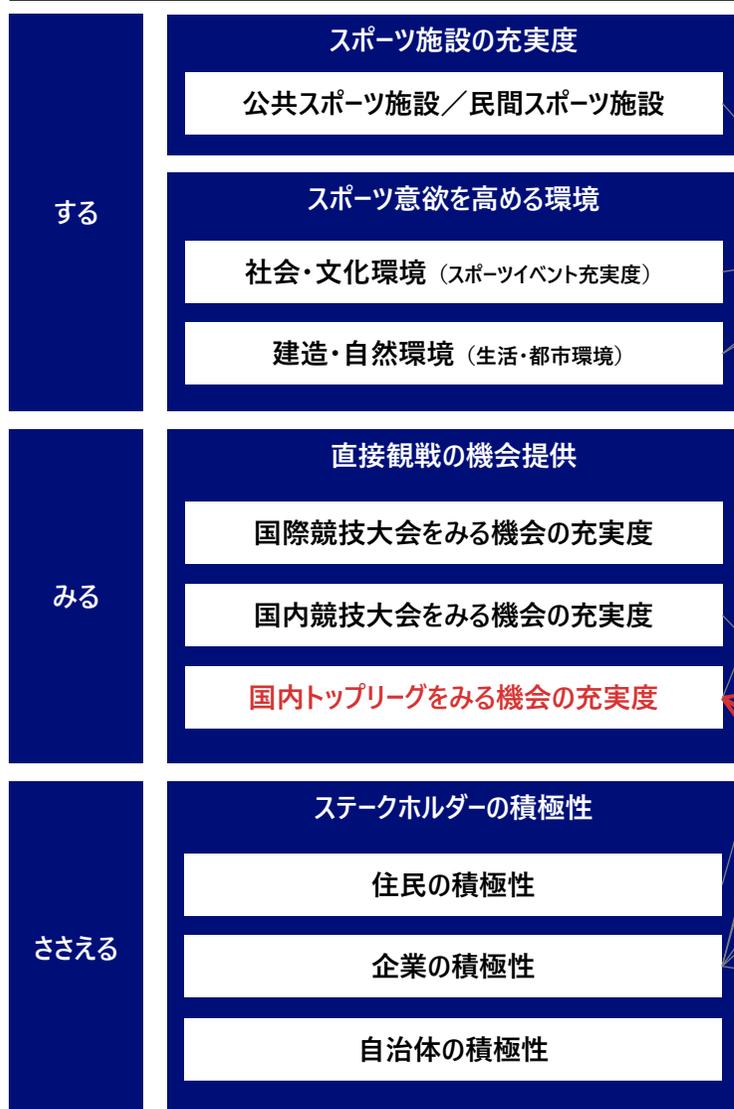
例：健康への意識×スポーツ実施率（個人）（相関係数：0.43）



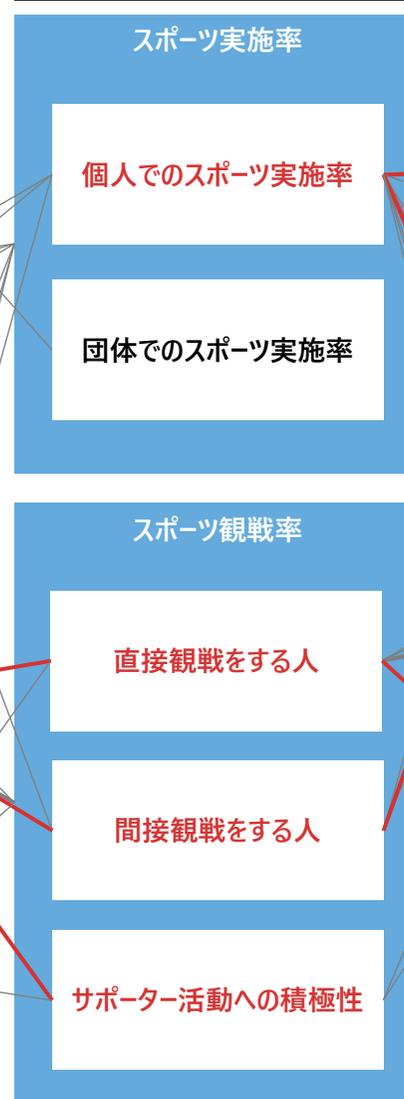
4. “スポーツ都市”に関する考察

インプット・アウトプット・アウトカムの間には、相関関係があることを解明した

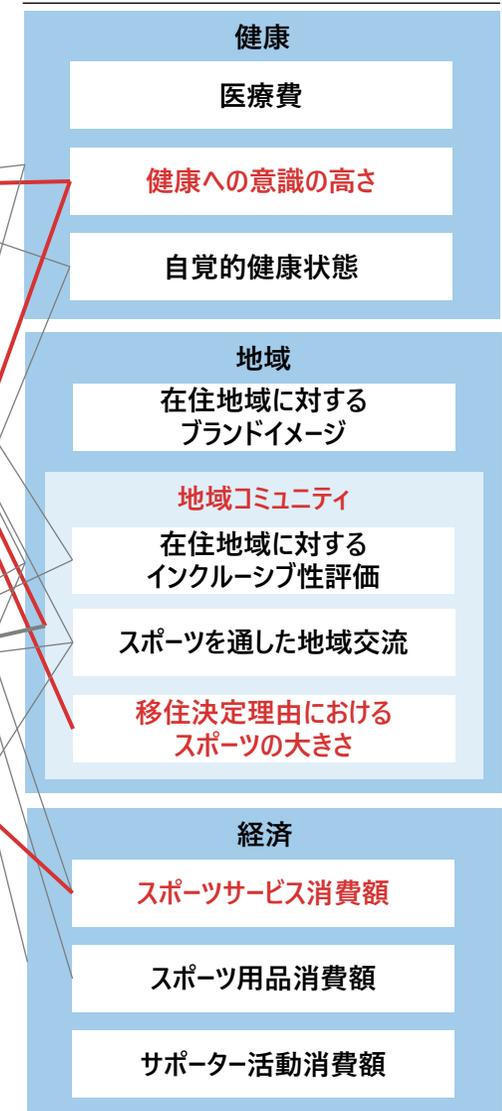
都市のスポーツ環境（インプット）



アウトプット



アウトカム



4. “スポーツ都市”に関する考察 | 都市別カルテ

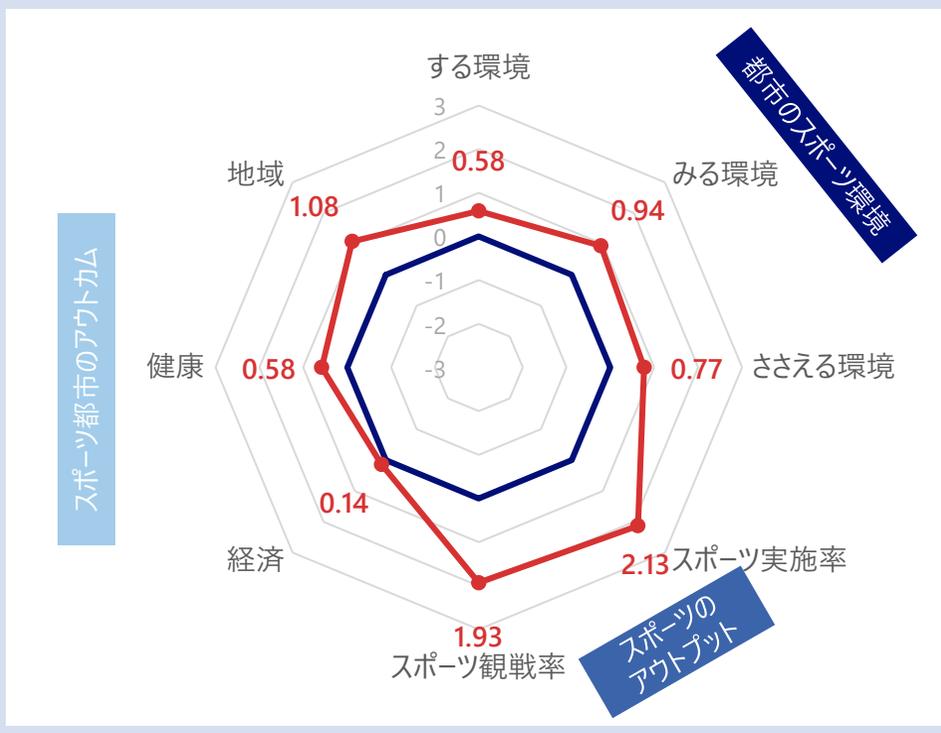
名古屋市は、スポーツ環境が住民のスポーツ活動と都市の効果に繋がっている“スポーツ都市”

①：愛知県名古屋市

- 都市のスポーツ環境として、「する」、「みる」、「ささえる」の全ての面で充実しており、住民がスポーツに関与する環境が整備されているまちといえる。
- スポーツ実施率は調査対象都市中1位、観戦率も4位で、都市のスポーツ環境が住民のスポーツ実施、観戦を促す結果となっている。
- また、「スポーツのアウトカム」の観点から、地域コミュニティの強さや住民の健康意識が高いことが分かる。

■ 評価項目別

—：平均
—：名古屋市



■ 都市の強み・弱み

— 強み（高スコア） —

1位	移住におけるスポーツ環境の影響
2位	競技別のスポーツ団体への所属
3位	国内トップリーグの試合を“みる”機会
4位	競技別のスポーツ団体への参加頻度
5位	インクルーシブ環境

— 弱み（低スコア） —

34位	公認スポーツ指導者数
35位	国際競技大会を“みる”機会
36位	緑豊かな（アウトドア）環境
37位	サポーター活動にける金額
38位	スポーツ用品に係る購買

4. “スポーツ都市”に関する考察 | 都市別カルテ

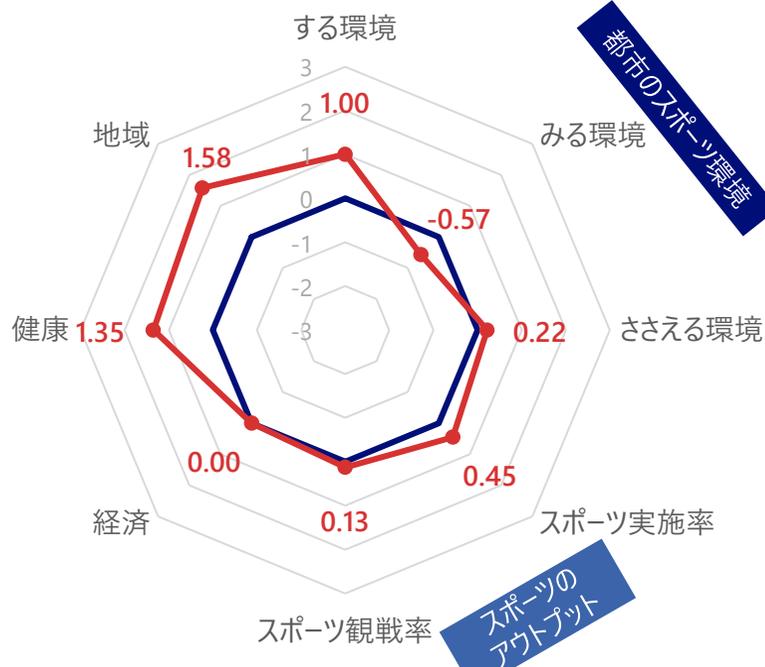
つくば市は、する環境が特に充実した“スポーツ都市”

②：茨城県つくば市

- 民間スポーツ施設や自治体主導のスポーツイベント開催による住民のスポーツ参加機会の充実や、ウォーカブル・ランニング環境やバリアフリー等のインクルーシブ性等ハード・ソフト両面で住民がスポーツを“する”環境が充実。
- する環境の充実が、高いスポーツ実施率、地域、健康面への高いアウトカムに寄与していると想定される。
- 一方、今後のさらなるアウトカム発現に向けて、国内トップリーグや国内競技大会等スポーツを“みる”環境の充実が求められる。

■ 評価項目別

—：平均
—：つくば市



■ 都市の強み・弱み

— 強み（高スコア） —

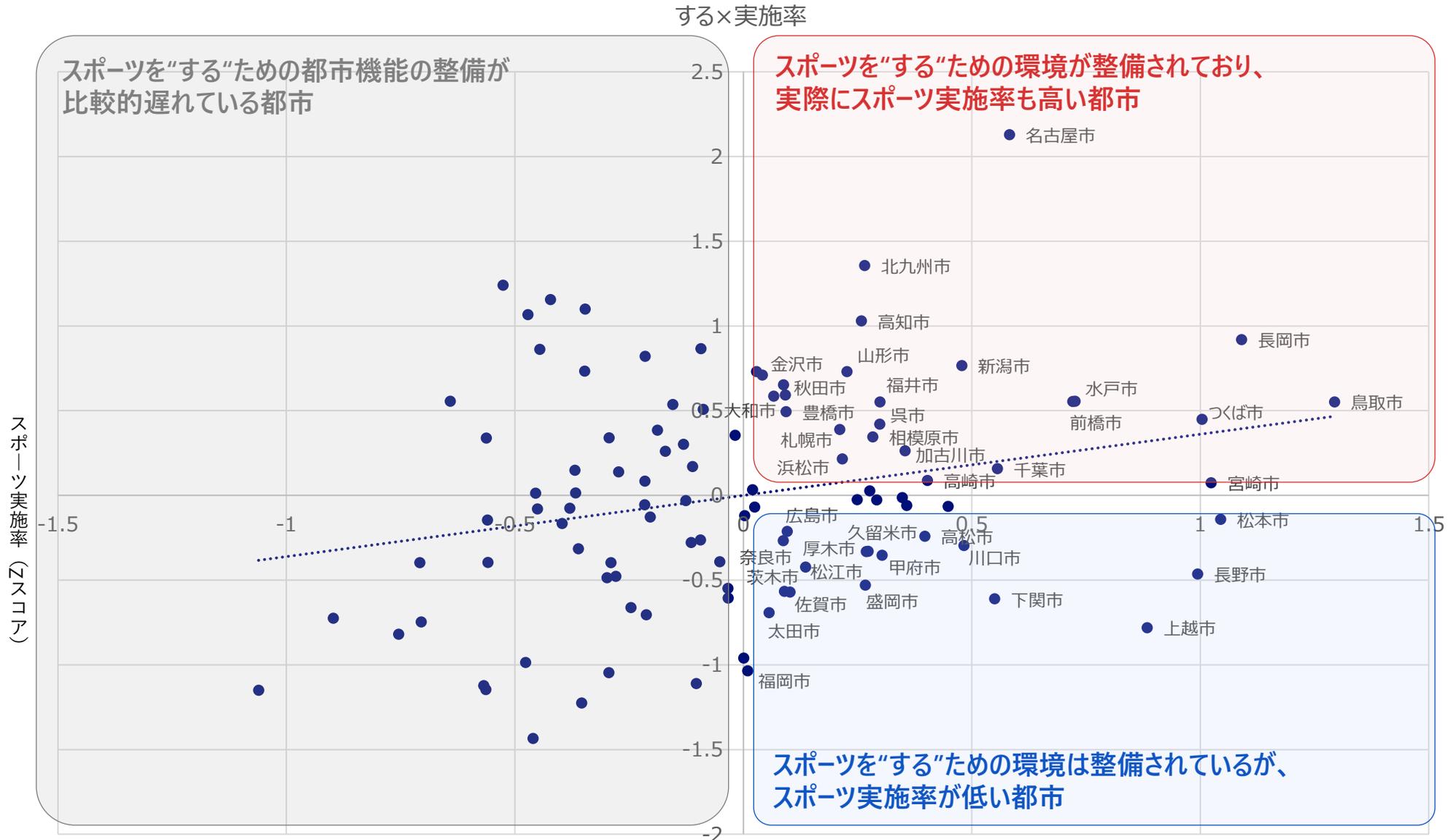
1位	コミュニティのインクルーシブ性
2位	ウォーカブル・ランニング環境
3位	地域へのブランドイメージ
4位	健康状態（身体面）
5位	医療費の少なさ

— 弱み（低スコア） —

34位	有線TVでの観戦環境
35位	国内トップリーグの試合を“みる”機会
36位	スポーツ専門部局の有無
37位	スポーツコミッションの有無
38位	国内競技大会を“みる”機会

4. “スポーツ都市”に関する考察 | する環境×実施率

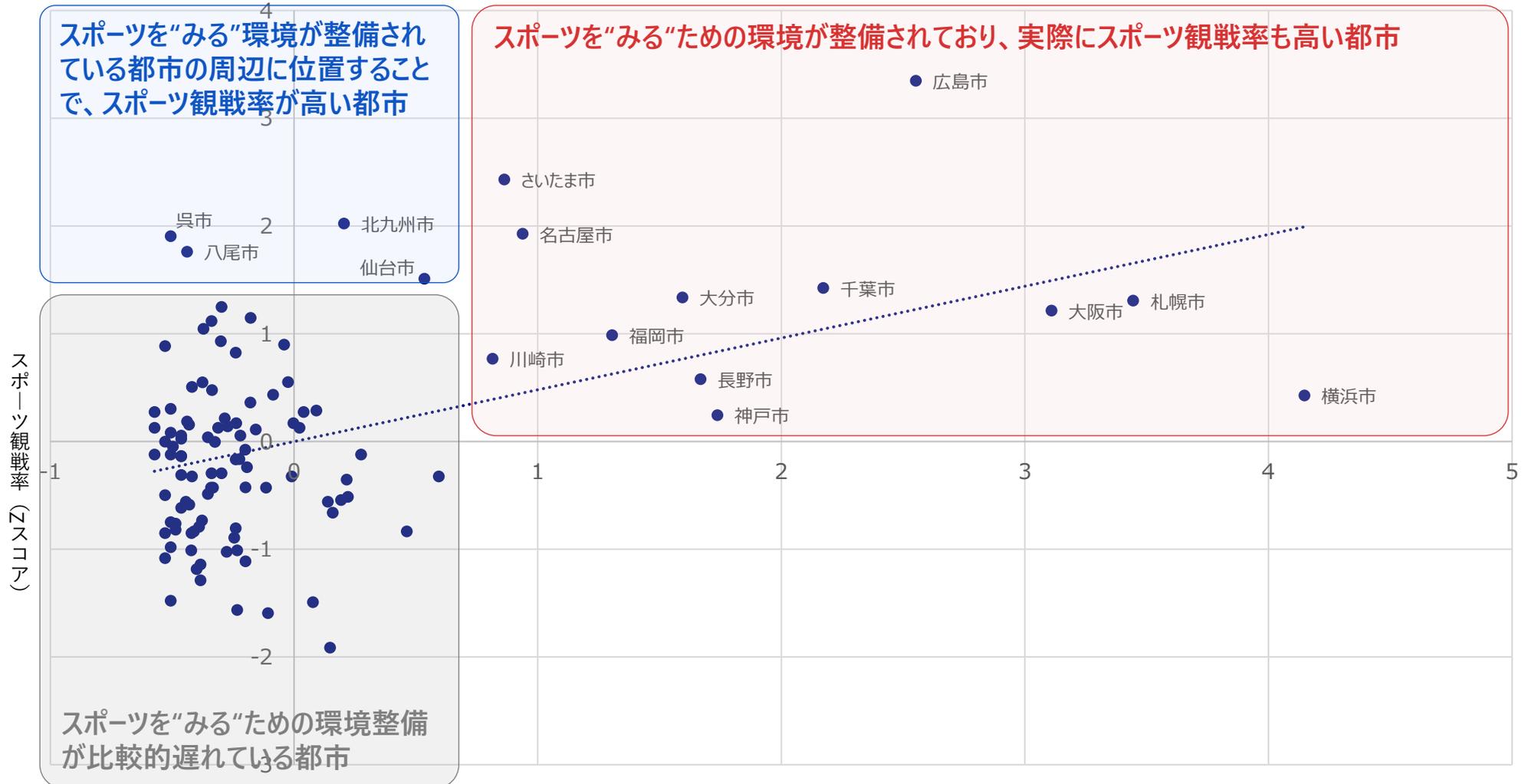
する環境が整備されつつも、市民の実施率向上に繋がられていない都市が確認された



4. “スポーツ都市”に関する考察 | みる環境×観戦率

一定のみる環境の整備は、明確にスポーツ観戦率の向上に寄与する

みる×観戦率



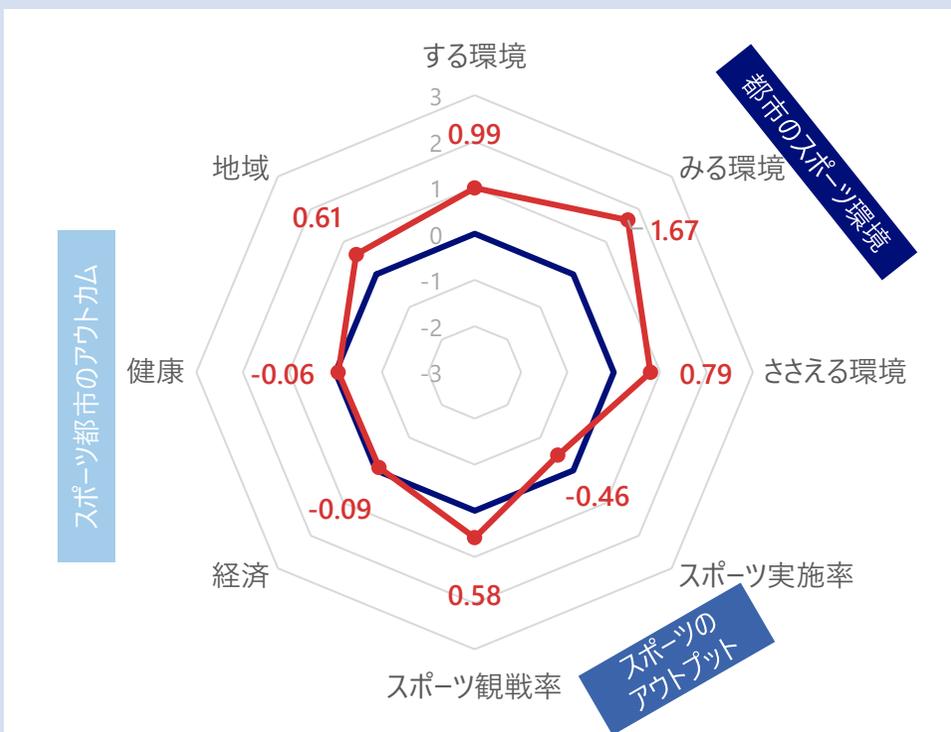
4. “スポーツ都市”に関する考察 | 都市別カルテ

長野市は、スポーツ環境が整備されているもののアウトプットが低い成長可能性を有する都市

③：長野県長野市

- スポーツを「する」「みる」「ささえる」すべての面でスコアが高く、充実したスポーツ環境を有している。
- 一方、スポーツのアウトカム指標である「スポーツ実施率」、アウトカム指標である「経済」「健康」では平均以下のスコアとなっており、スポーツ環境を活かした住民のスポーツ参加に向けた取組の推進が期待される。

■ 評価項目別



■ 都市の強み・弱み

－ 強み（高スコア）－

1位	国内競技大会を“みる”機会
2位	公共スポーツ施設数（一人当たり）
3位	ウォーカブル・ランニング環境
4位	公認スポーツ指導者数
5位	スポーツコミッションの有無

－ 弱み（低スコア）－

34位	競技別のスポーツ団体への所属
35位	健康状態（身体面）
36位	健康状態（精神面）
37位	有料スポーツ施設の利用
38位	コミュニティのインクルーシブ性※

※インクルーシブ性：スポーツ施設等におけるバリアフリー状況の満足度

01 スポーツ・健康まちづくりに取り組む意義

02 調査方法

03 「スポーツ環境」に関する都市ランキング

04 “スポーツ都市”に関する考察

05 まとめ

5. まとめ

影響力が大きいスポーツ環境とは

スポーツ実施率

- スポーツ実施率と正の相関がみられるスポーツ環境は、確認できなかった。
- 一方で、スポーツ実施率と弱い正の相関が確認できたスポーツ環境は多かった。
- 具体的には、「公共／民間スポーツ施設」、「社会・文化環境」、「建造・自然環境」、「企業の積極性」、「住民の積極性」、「国内トップリーグ」である。
- これにより、スポーツ実施率向上には、上記を中心に、複数の環境を並行的に整備する必要があると考えられる。

スポーツ観戦率

- スポーツ観戦率と正の相関が見られたのは、「国内トップリーグ」の充実度であった。
- 「国内トップリーグ」の充実度は、スポーツ観戦率の内訳である、直接観戦、間接観戦、サポーター活動のいずれにも正の相関が見られ、影響力が大きいと考えられる。

5. まとめ

“スポーツ都市”とは

“スポーツ都市”とは

- 都市のスポーツ環境（インプット）とアウトプット、アウトカム間に相関関係を確認できた。
- よって、都市がスポーツ環境を整備して住民のスポーツ実施率、観戦率を高めることは、「地域経済活性化」、「住民の健康増進」、「地域コミュニティ醸成」といった社会課題解決に係る一定の効果を都市にもたらし得ると言える。
- 都市が有するスポーツ環境が住民のスポーツ実施率・観戦率を高め、それが健康・経済・地域等のまちづくりの効果として表れているのが“スポーツ都市”と考えられる。
- スポーツ都市としては、名古屋市やつくば市、千葉市、さいたま市などが確認された。

成長可能性を有する都市

- 一方で、スポーツ環境が整備されていれば必ずしもそれがアウトプット・アウトカムに繋がるとは言えない。
- 例えば、長野市は、“する”、“みる”、“ささえる”全てのスポーツ環境でランキング10位に入っているが、住民のスポーツの実施率・観戦率は高くなかった。また、北九州市もスポーツ環境が整備されており、住民のスポーツ実施率・観戦率が突出して高いものの、アウトカムのスコアは低かった。
- こうした都市は、住民のスポーツ活動を誘発し得るスポーツ環境を有し、理想的な“スポーツ都市”への成長が期待される成長可能性を有する都市と言える。
- このように、“スポーツ都市”の実現には、スポーツ環境の整備に加え、それをいかに活用して住民のスポーツ実施や観戦を促すかも、非常に重要な論点であることが分かった。
- スポーツ環境をいかにして住民のスポーツ実施や観戦に繋げるかのポイントは、今後の要調査項目である。

参考資料

スポーツを「する」環境は、 体育・スポーツ施設の充実度、都市機能の充実度、環境整備体制の充実度により評価

※青字はアンケート調査にて把握

大項目	中項目	小項目	指標（一人当たり）
スポーツ施設の 充実度	スポーツ施設	公共スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> 市区町村が保有する体育館、陸上競技場、野球場、プール施設数 施設満足度
		民間スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> 民間企業・団体が保有する屋外運動場、体育館、水泳プール等施設数 施設満足度
スポーツ意欲を 高める 都市環境	社会・文化環境	イベント参加環境	<ul style="list-style-type: none"> 住民参加型スポーツイベント等の開催状況 （イベント参加頻度、自治体の周知状況）
	建造・自然環境	ウォーカブル・ランニング環境	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の満足度（車を使わないで生活できるか、歩きやすいまちか） ※国交省「まちなかの居心地の良さを測る指標」
		緑豊かな（アウトドア）環境	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園面積、自然環境割合 生活環境の満足度（みどりに触れ合える機会があるか）
		インクルーシブ環境	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の満足度 （バリアフリーがすすんでいるまちか、街並みがきれい、景観の良いまちか）

スポーツを「みる」環境は、国際・国内競技大会の開催数と国内トップリーグの充実度で評価

- 本検討においては「観戦料を払って”みる”機会の提供」に関して都市評価指標を設定する（学生スポーツは除く）
- スポーツを”みる”機会は直接観戦と間接観戦に分けられるが、本検討においてはより自治体に関わる直接観戦のみを対象とする

大項目	中項目	小項目	指標
直接観戦の機会提供	国際競技大会を ”みる”機会の提供	対象自治体での 大会実施数	<ul style="list-style-type: none"> 国際競技大会予定/実施数
	国内競技大会を ”みる”機会の提供	対象自治体での 大会実施数	<ul style="list-style-type: none"> 主要大会の実施数
	国内トップリーグの試合を ”みる”機会の提供	ホームタウンとするチーム とその活動	<ul style="list-style-type: none"> チーム数 各チームの年間ホームゲーム数 各チームのホーム会場収容人数

※ 駅伝やロードレースなど広範囲で競技を行うため観戦料を払わなくとも観戦できるものも、例外としてカウントする

スポーツを「ささえる」指標については、住民・企業・自治体の活動をそれぞれ評価

※青字はアンケート調査にて把握

大項目	中項目	小項目	指標
ステークホルダーの積極性	住民の積極性	スポーツボランティア	<ul style="list-style-type: none"> スポーツボランティア参加に対する積極性
		スポーツ有資格者	<ul style="list-style-type: none"> 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録人数 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 指導者資格（スポーツ指導者/競技別指導者） ✓ フィットネス資格 ✓ メディカル・コンディショニング資格 ✓ マネジメント資格
	企業の積極性	スポーツ支援 (スポンサー活動など)	<ul style="list-style-type: none"> 住民が感じる地元企業のスポーツ支援への積極性
	自治体の積極性	スポーツに関する計画	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する計画の有無
		スポーツ専門部局	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ専門の部局の有無
		スポーツコミッション	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツコミッションの数
		東京2020大会における活動	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会におけるキャンプ誘致数

スポーツのアウトプットは、「実施率」、「観戦率」の2つの観点で評価

※青字はアンケート調査にて把握

大項目	中項目	小項目	指標
スポーツの実施率	個人	無料	・ ウォーキング、ランニング、サイクリング等の無料で実施するスポーツ活動の頻度
		有料	・ ジム、プール、ゴルフ、ヨガ教室等の有料で実施するスポーツ活動の頻度
	団体	所属	・ スポーツ団体への所属有無
		参加頻度	・ 所属するスポーツ団体を介したスポーツ活動の実施頻度
スポーツの観戦率	サポーター活動		<ul style="list-style-type: none"> ・ サポートチームの有無 ・ サポートチームが居住都市をホームタウンとしているか
	直接		・ スタジアムでの観戦頻度
	間接	地上波TVでの観戦	・ 地上波TVでの観戦頻度
		有線TVでの観戦	・ 有線TVでの観戦頻度
		インターネットでの観戦	・ インターネットを活用した観戦頻度

スポーツのアウトカムは、「経済」、「健康」、「地域」の3つの観点で評価

大項目	中項目	小項目	指標
経済	スポーツ関連支出	スポーツサービス	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ月謝、スポーツ観覧料、スポーツクラブ使用料など
		スポーツ用品	<ul style="list-style-type: none"> 運動用具類、スポーツ用品など
		サポーター活動	<ul style="list-style-type: none"> サポーター活動にかかる金額
健康	医療費		<ul style="list-style-type: none"> 1人当たり医療費
	健康への意識		<ul style="list-style-type: none"> 健康への意識の高さ
	自覚的健康状態	精神面	<ul style="list-style-type: none"> 幸福度、ストレス
		身体面	<ul style="list-style-type: none"> 身体的な健康状態
地域	居住都市に対するブランドイメージ		<ul style="list-style-type: none"> 居住都市に対する愛着・誇り 居住都市に対するイメージ
	コミュニティ	インクルーシブ性	<ul style="list-style-type: none"> 自由な雰囲気（他人を気にせず生活できる）があるか 多様な人を受け入れるか（LGBT、障がい者、外国人等）
		交流人口	<ul style="list-style-type: none"> 居住都市におけるスポーツを介した交流・出会いの数・頻度
		移住要因	<ul style="list-style-type: none"> 居住都市への移住におけるスポーツ環境の影響

国内トップリーグの選定基準と評価対象リーグ

- 本検討において評価対象とする国内トップリーグは、「**JSPOに加盟している中央競技団体競技またはその関連団体が運営、公認するトップリーグ**」かつ「**リーグ所属チーム全てホームタウン又はホームスタジアムが明記されているもの**」とした。
- その結果、下表に示す**赤字ハイライト**の10のリーグを評価対象として選定した。

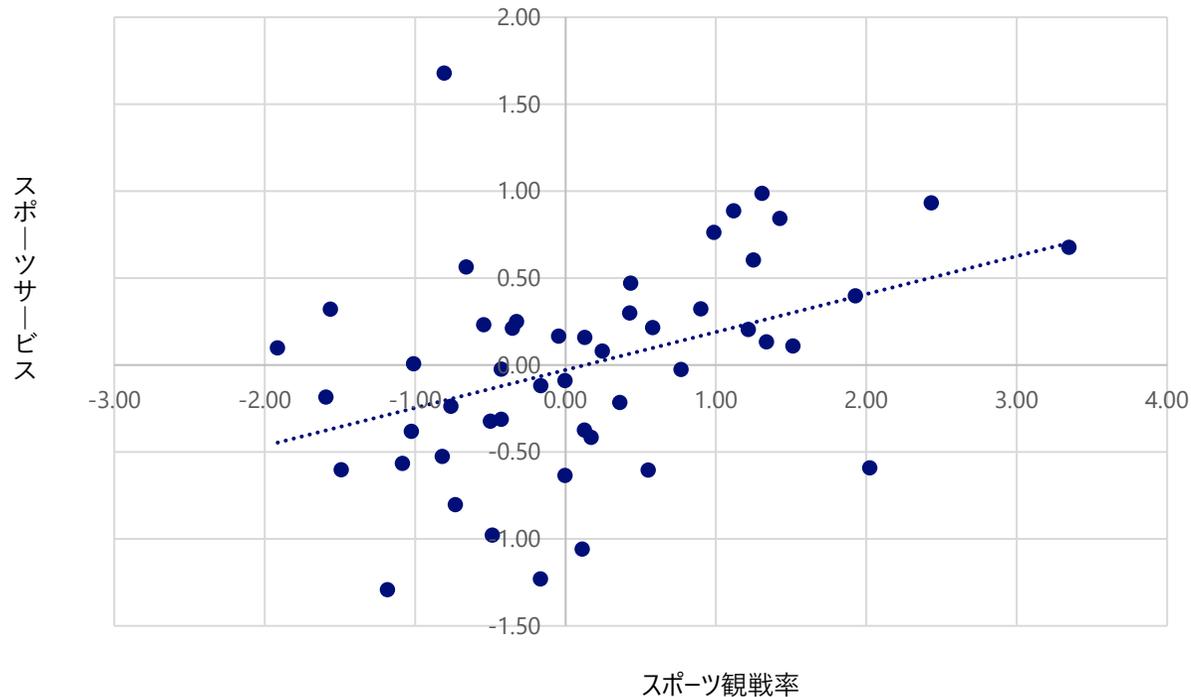
JSPO加盟団体名	競技	トップリーグ			
		男子		女子	
		リーグ名	ホームタウン記載有無	リーグ名	ホームタウン記載有無
日本サッカー協会	サッカー／フットサル	Jリーグ／Fリーグ	○	WEリーグ	○
日本ホッケー協会	ホッケー	ホッケージャパンリーグ		ホッケージャパンリーグ	
日本バレーボール協会	バレーボール	Vリーグ	○	Vリーグ	○
日本バスケットボール協会	バスケットボール	Bリーグ	○	WJBL	
日本自転車競技連盟	ロードレース	ジャパンサイクルリーグ	○		
日本卓球協会	卓球	Tリーグ	○	Tリーグ	○
日本ソフトボール協会	ソフトボール	日本ソフトボールリーグ		日本ソフトボールリーグ	
日本バドミントン協会	バドミントン	S/Jリーグ		S/Jリーグ	
日本ラグビーフットボール協会	ラグビー	ジャパンラグビートップリーグ			
日本アイスホッケー連盟	アイスホッケー	アジアリーグアイスホッケー	○		
日本野球連盟	野球	日本プロ野球	○		
日本ダンススポーツ連盟	ダンス	Dリーグ		Dリーグ	
日本アメリカンフットボール協会	アメリカンフットボール	Xリーグ			

「スポーツサービスへの支出」と「スポーツ観戦率」に正の相関が見られた

アウトカム創出に必要なアウトプット

- スポーツサービスへの支出と正の相関が確認できたのは、スポーツ観戦率

スポーツサービス×スポーツ観戦率（相関係数：0.45）



「スポーツ観戦率」と正の相関が見られたスポーツ環境は、「国内トップリーグの充実度」

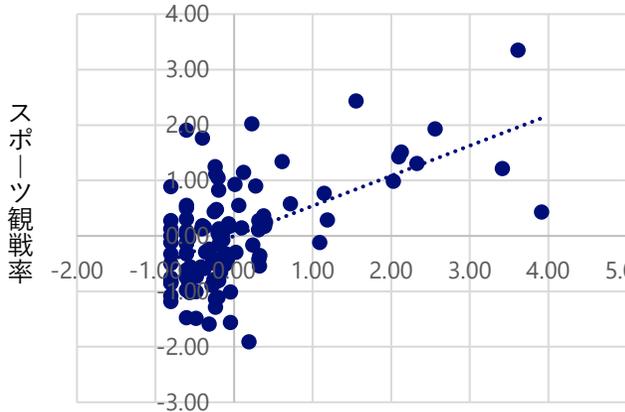
アウトカム創出に必要なアウトプット

- スポーツサービスへの支出とやや強い相関が確認できたのは、スポーツ観戦率

必要なスポーツ環境

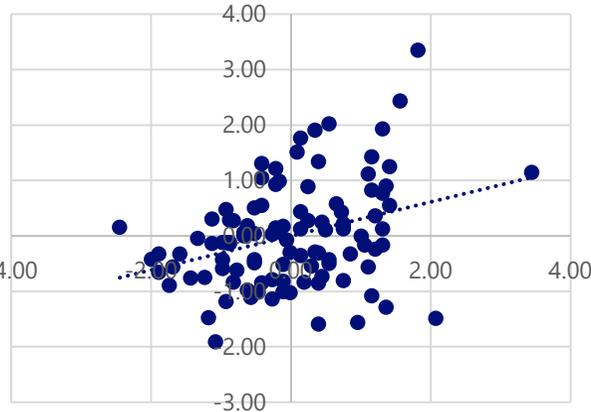
- スポーツ観戦率が高い都市では、国内トップリーグを見る機会が充実していた
- また、企業の積極性と国内競技大会の誘致数も、スポーツ観戦率と弱い相関を見ることができた

スポーツ観戦率×国内トップリーグ（相関係数：0.55）



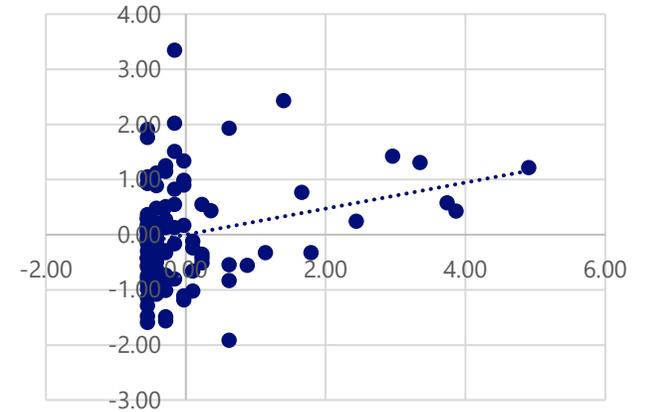
国内トップリーグ

スポーツ観戦率×企業の積極性（相関係数：0.33）



企業の積極性

スポーツ観戦率×国内競技大会（相関係数：0.25）



国内競技大会

みる環境を構成する3指標は、直接的に「スポーツサービスへの支出」との相関が見られた

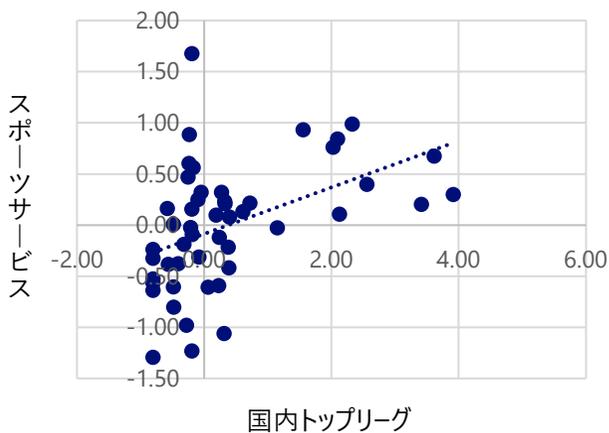
アウトカム創出に必要なアウトプット

- スポーツサービスへの支出と正の相関が確認できたのは、スポーツ観戦率

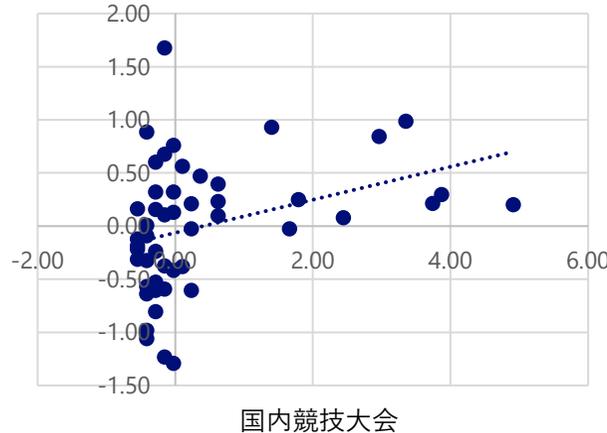
必要なスポーツ環境

- また、みる環境を構成する3つの指標である、国内トップリーグと、国内競技大会、国際競技大会の誘致数は、直接的にスポーツサービスへの支出との相関を見ることができた

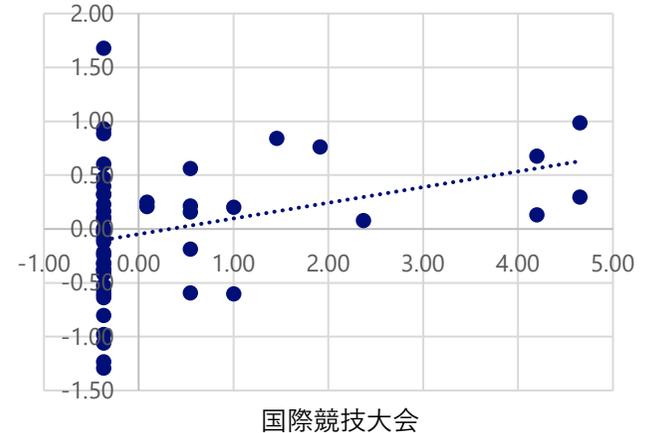
スポーツサービス×国内トップリーグ（相関係数：0.45）



スポーツサービス×国内競技大会（相関係数：0.34）



スポーツサービス×国際競技大会（相関係数：0.33）



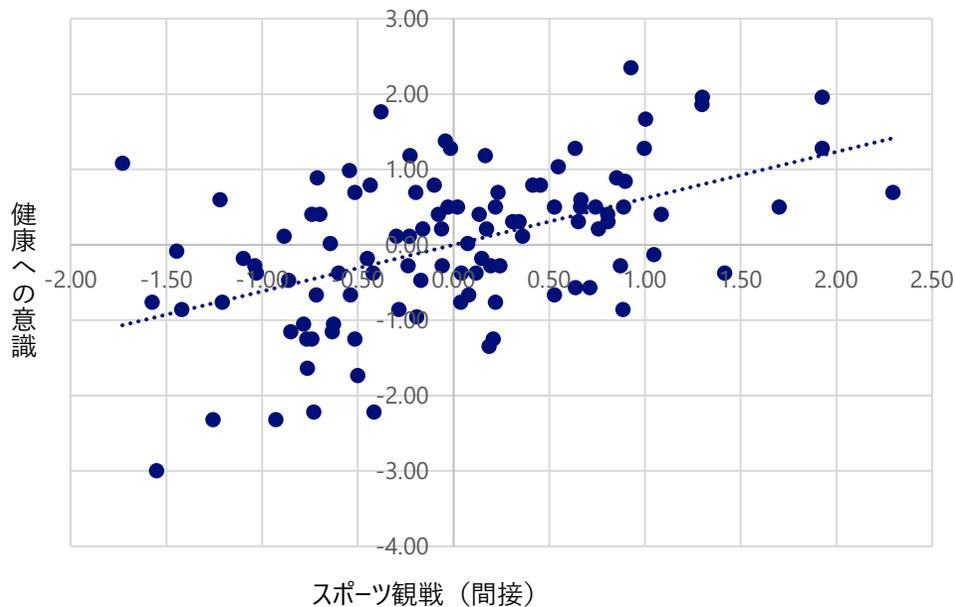
「健康への意識」と「間接スポーツ観戦率」・「個人スポーツ実施率」に正の相関が見られた

アウトカム創出に必要なアウトプット

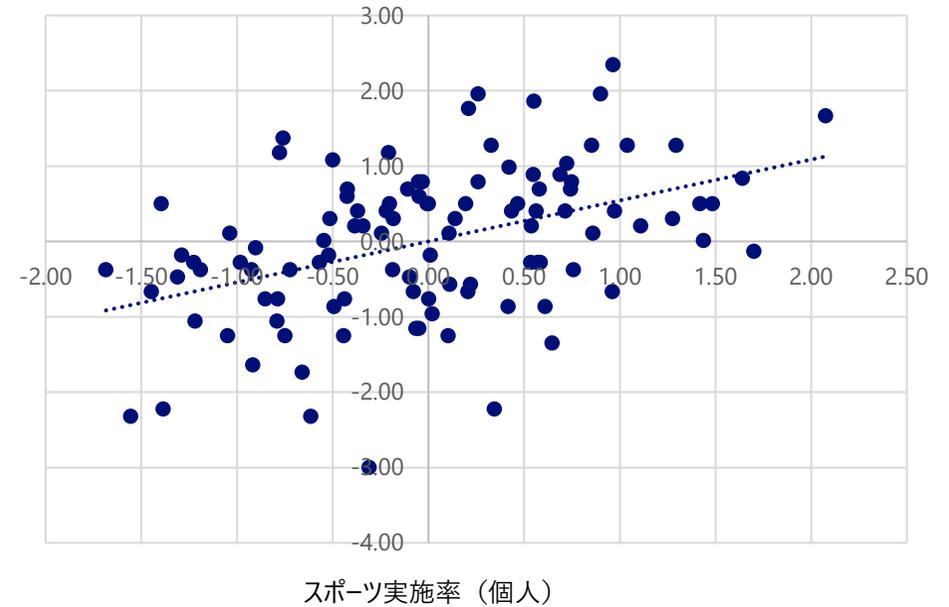
■ 健康への意識と正の相関が確認できたのは、スポーツ観戦率（間接観戦）

■ 健康への意識と正の相関が確認できたのは、スポーツ実施率（個人）

健康への意識×スポーツ観戦率（間接）（相関係数：0.50）



健康への意識×スポーツ実施率（個人）（相関係数：0.43）



「個人スポーツ実施率」と相関が見られたスポーツ環境は、「企業の積極性」や「都市環境」

アウトカム創出に必要なアウトプット

- 健康への意識と正の相関が確認できたのは、スポーツ観戦率（間接観戦）

- 健康への意識と正の相関が確認できたのは、スポーツ実施率（個人）

必要なスポーツ環境

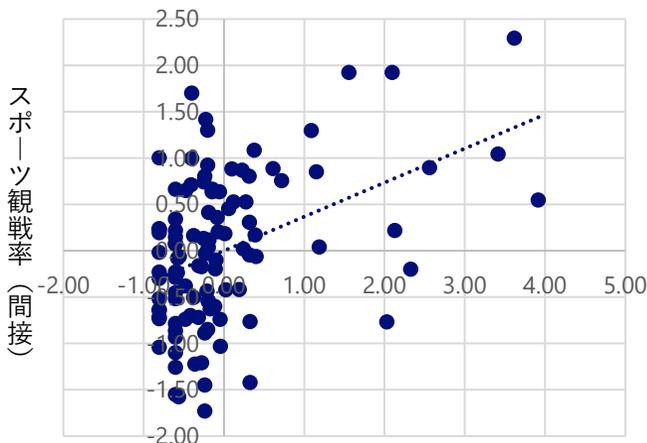
- スポーツ観戦率（間接観戦）が高い都市では、国内トップリーグを見る機会が充実していた

- スポーツ実施率（個人）が高い都市では、企業によるスポーツへの積極性とスポーツや運動を誘発する都市環境が充実していた

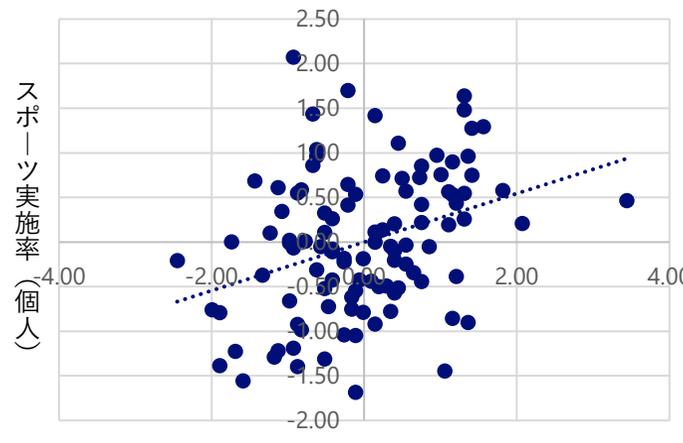
スポーツ観戦率（間接）×国内トップリーグ（相関係数：0.42）

スポーツ実施率（個人）×企業の積極性（相関係数：0.34）

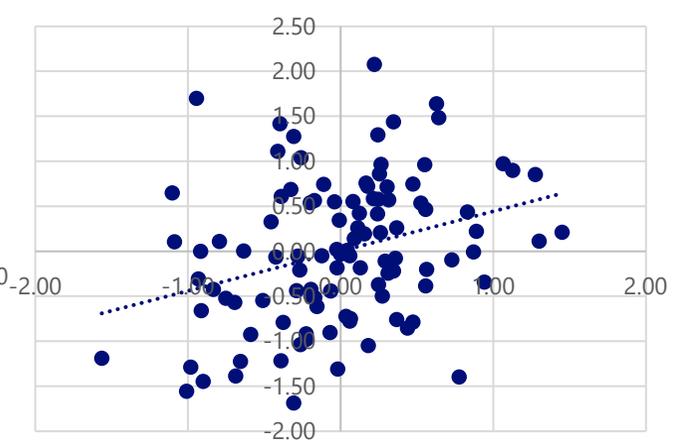
スポーツ実施率（個人）×都市環境（相関係数：0.32）



国内トップリーグ



企業の積極性



都市環境

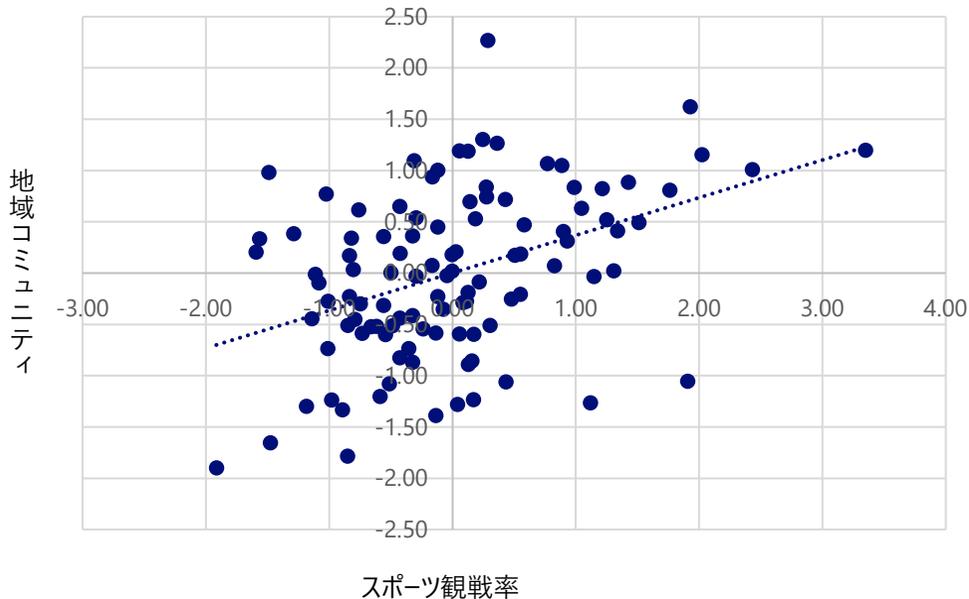
「地域コミュニティ」は、「スポーツ観戦率」と「個人スポーツ実施率」とやや強い相関が見られた

アウトカム創出に必要なアウトプット

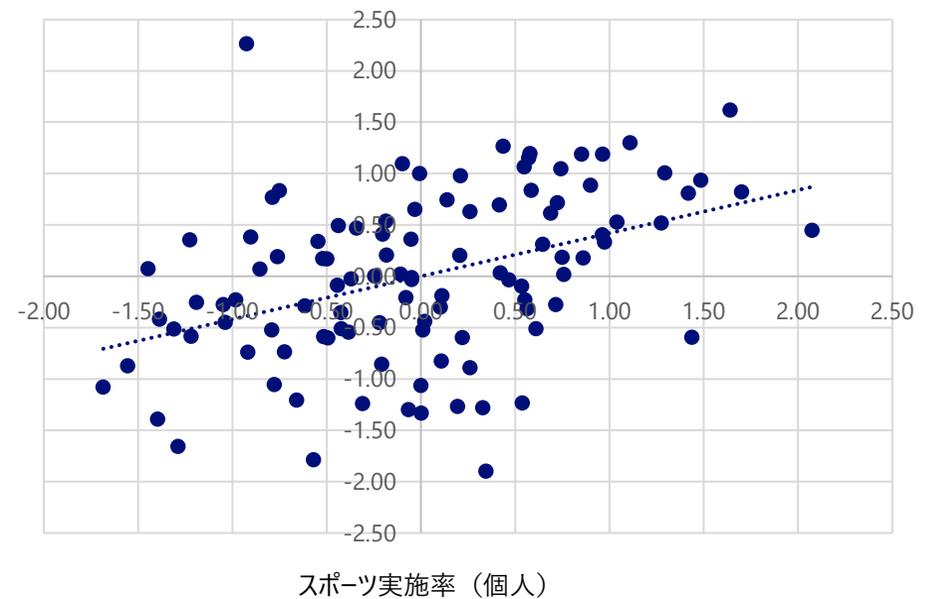
■ 地域コミュニティと正の相関が確認できたのは、スポーツ観戦率

■ 地域コミュニティと正の相関が確認できたのは、スポーツ実施率（個人）

地域コミュニティ×スポーツ観戦率（相関係数：0.42）



地域コミュニティ×スポーツ実施率（個人）（相関係数：0.42）



「スポーツ観戦率」と「個人スポーツ実施率」を高めるスポーツ環境は、下記の通り

アウトカム創出に必要なアウトプット

■ 地域コミュニティと正の相関が確認できたのは、スポーツ観戦率

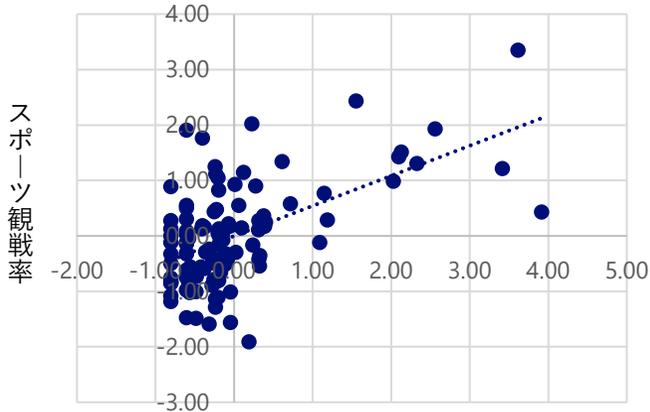
■ 地域コミュニティと正の相関が確認できたのは、スポーツ実施率（個人）

必要なスポーツ環境

■ スポーツ観戦率が高い都市では、国内トップリーグを見る機会が充実していた

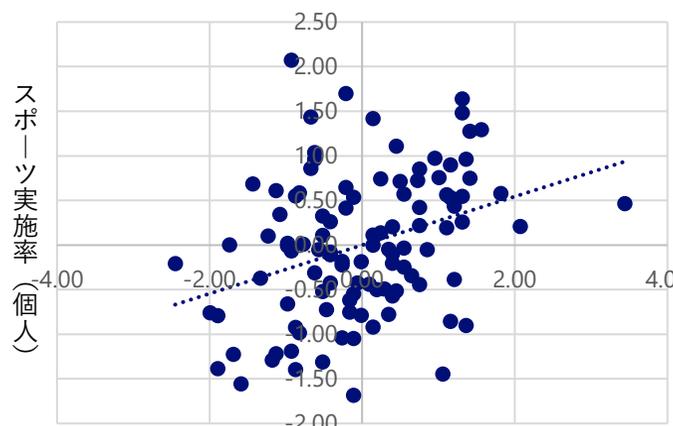
■ スポーツ実施率（個人）が高い都市では、企業によるスポーツへの積極性とスポーツや運動を誘発する都市環境が充実していた

スポーツ観戦率×国内トップリーグ（相関係数：0.55）



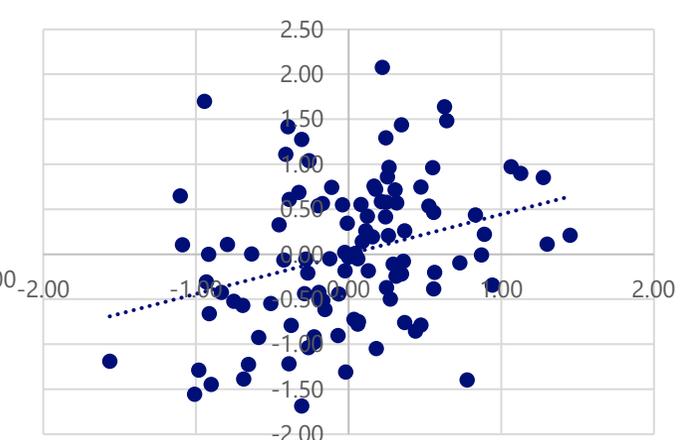
国内トップリーグ

スポーツ実施率（個人）×企業の積極性（相関係数：0.34）



企業の積極性

スポーツ実施率（個人）×都市環境（相関係数：0.32）



都市環境

The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right. The bottom swoosh is a solid blue bar.

Share the Next Values!